

事業所名 福岡市立南部療育センター(肢体不自由児通園)

あゆみ園 支援プログラム

作成日

R8

年

2 月

28 日

法人（事業所）理念		・ご利用のお客様の信頼と安心を第一にします。 ・障がいのある方々のくらしをお手伝いします。 ・やる気と工夫で福祉の仕事を広げます。					
支援方針		・通園を通して生活リズムを整え、園生活の流れを理解できるように促します。 ・継続した通園の中で食事・排泄・更衣等の生活習慣を身につける力を育てます。 ・あそびを通して身の回りの物やあそびに対する興味や意欲を育てます。 ・自分なりの方法で要求や気持ちを表現し、人とのコミュニケーションの力を育てる支援を行います。					
営業時間		8 時	45 分から	17 時	15 分まで	送迎実施の有無	あり なし
		支 援 内 容					
本人支援	健康・生活	1・2歳児：個々の生活リズム（食事、排泄、睡眠）を把握し、体調に合わせて元気に過ごせるよう配慮し多職種で支援します。 親子通園のリズムに慣れ、給食や活動場面で楽しく過ごせる工夫や環境を整えていきます。 3～5歳児：個々に応じた生活習慣（食事、排泄、更衣等）が身に付くような方法や環境を検討し、保護者と一緒に取り組みます。 保護者以外の大人との関わりに慣れ、自分でできる部分を増やしなが、自分でやってみようとする気持ちを育てます。 ※医療的ケア児に対して、安全に適切なケアが受けられるように、医療スタッフと連携しながらケアの実施・環境整備を行います。					
	運動・感覚	1・2歳児：保育活動の中でいろいろな姿勢を経験し、安定した姿勢であそびなどして過ごせるようにします（ポジショニングの検討）。 顔や体に触れることに慣れて、自分でいろいろな感触の物に触れる経験ができるようにします。 必要に応じて眼鏡の装用や補聴器使用を促し、十分にあそびを楽しめるように設定していきます。 3～5歳児：運動状況に応じて、自力での移動や補助具等を使いながら能動的に動く経験を増やします。全身を使うあそびを取り入れ、ボディーイメージを高めます。 個々の段階に合った手指あそびを経験できるようにします。					
	認知・行動	1・2歳児：保育の中で見る、聞く、触るあそびを設定し、紙芝居や音楽を楽しむなどして物の注視や追視を促します。 遊びの中で手と目の協応を促すための工夫や、因果関係を理解できる遊具・環境を整えていきます。 3～5歳児：実物や写真、カードを使用し、次の活動への見通しをもたせ、期待感を持って遊びに参加できるようにします。 2つの物を見比べ、注目したり、自分で選ぶ経験ができるようにします。					
	言語 コミュニケーション	1・2歳児：分かりやすい言葉かけや身振り等で状況を伝え、理解を促します。 好きなあそびを見つけ、繰り返し経験することで期待感や意欲を持たせていきます。 大人が子どもの表情や動作、声に応じることで、要求表現を育てていきます。 3～5歳児：表情や身振り、発声等、自分なりの方法で大人に気持ちを伝えられるようにコミュニケーションの力を育てていきます。 スイッチやipadなどのICT機器を活用し、主体的に伝えることができるようにコミュニケーションの手段を広げていきます。					
	人間関係 社会性	1・2歳児：親子あそびを通して親子関係・愛着を深める機会を多く取り入れます。 保護者以外の人との関わりに慣れ、落ち着いた雰囲気の中でリラックスして過ごせるようにします。 3～5歳児：設定保育や自由遊びの場面で友だちへの関心を促し、楽しくやりとりをする機会や一緒に活動を楽しめるように支援します。 保育者が簡単なルールのあるあそびを設定し、仲立ちしながら集団活動を楽しめるようにします。					
家族支援		・個別面談の機会を通じて、家庭課題を一緒に立案し具体的な支援内容について共有します。				移行支援	・卒、転園先の進路先へ引き継ぎを行い、新しい環境でも安心して過ごせるようにします。
地域支援・地域連携		・地域の幼・保育園の園庭遊びを設定し園児と交流する機会を設けます。 ・地域の公園へ散歩に行く機会を設けます。				職員の質の向上	・園内研修を計画的に行います。 ・外部からのスーパーバイズを受け、療育の質の向上に努めます。
主な行事等		入園式（4月）、日曜参観（6月）、あゆみフェスティバル（9月）、秋の遠足・家庭訪問（10月）、クリスマス会（12月）、卒園式（3月）					